

Nouso-isekigun

納 楚 遺 跡 群

納楚楠町遺跡第 4 次調査

納楚柳遺跡第 5 次調査

八女市文化財調査報告書 第 143 集

2024

八女市教育委員会

序

八女市は、豊かな自然と歴史、受け継がれてきた伝統文化、農産物や郷土料理など、多くの恵みと人の温もりにあふれるまちです。それらは、生活に潤いとやすらぎをもたらすとともに、私たちの心の中に、ふるさとを誇り愛する気持ちとして息づいています。このふるさとの恵みと誇りを、未来につなぎ継承するまちづくりを進めています。

令和5年度は、八女市第5次総合計画の3年目にあたります。八女市基本政策6「ふるさとを愛する人づくり」では、「歴史と伝統に育まれた“八女文化”が活きるまちをつくる」ことを目標に、「筑紫君磐井と八女古墳群及び南北朝時代等の歴史文化遺産の保存・活用」に取り組んでいます。

今回報告する納楚遺跡群は、令和4年度に民間の宅地造成に伴って実施された納楚楠町遺跡第4次調査、及び納楚柳遺跡第5次調査の2件の緊急発掘調査です。

調査では、弥生時代中期の甕棺墓域と集落跡に伴う溝などが発見され、八女市域の弥生時代の様相を解明する貴重な資料が得られました。

この成果を活かし、八女市の文化行政の発展及び地域文化の振興に貢献できれば幸いです。

今回の調査にあたってご協力いただきました地権者様ならびに関係各位に感謝申し上げます。

令和6年3月31日

八女市教育委員会
教育長 橋本 吉史

例言

- ・本書は、令和4年度に民間の宅地造成に伴って実施された納楚楠町遺跡第4次調査、及び納楚柳遺跡第5次調査の発掘調査報告書である。
- ・本書の編集・執筆は八女市教育委員会の江頭俊介が行った。
- ・遺構図の作成は、現地にて橋村照子、月足まつみ、浅田身鈴途と江頭が手測りにて行った。
- ・現地での遺構写真は江頭がデジタルカメラ ニコン D850 で撮影した。
- ・遺構図面の編集及びトレースは平島昌美が行った。
- ・遺物の実測は内田美由紀、星野悠太、由布淳子、吉武大輝が行った。
- ・遺物のトレースは内田美由紀、小川剛、小川里奈が行った。
- ・遺物写真撮影は永田寧と木原堯が八女市文化財整理室にて行った。
- ・座標は世界測地系第2系を使用している。座標の設置は調査開始時に株式会社大成ジオテックに委託して行った。
- ・納楚楠町遺跡第4次調査の空中写真撮影は有限会社空中写真企画に委託して行った。
- ・遺構略記号は SA- 柵列、SB- 建物、SD- 溝、SE- 井戸、SF- 道路、SI- 竪穴建物、SK- 土坑、ST- 墓、SP- ビット、SX- 不明遺構を指す。
- ・調査図面及び遺物は八女市文化財整理室で保管している。

目次

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 調査の体制	1
3. 位置と環境	2

第2章 納楚楠町遺跡第4次調査

1. 調査の方法と基本層序	4
2. 検出遺構	4
3. 出土遺物	10
4. まとめ	14

第3章 納楚柳遺跡第5次調査

1. 調査の方法と基本層序	16
2. 検出遺構	16
3. 出土遺物	18
4. まとめ	20

挿図目次

第1図	八女市位置図 (1/1,250,000) ・ ・ ・ ・ ・	2
第2図	周辺道路分布図 (1/25,000) ・ ・ ・ ・ ・	3
第3図	調査区位置図 (1/2,500) ・ ・ ・ ・ ・	3
第4図	納楚楠町遺跡第4次調査遺構配置図 (1/200) ・ ・ ・	5
第5図	遺構実測図① (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	7
第6図	遺構実測図② (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	8
第7図	遺物実測図① (1/4、1/8) ・ ・ ・ ・ ・	11
第8図	遺物実測図② (1/8) ・ ・ ・ ・ ・	12
第9図	遺物実測図③ (1/8) ・ ・ ・ ・ ・	13
第10図	納楚楠町遺跡周辺遺構配置図 (1/400) ・ ・ ・	15
第11図	納楚柳遺跡第5次遺構配置図 (1/200) ・ ・ ・	17
第12図	遺構実測図① (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	19
第13図	遺構実測図② (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	20
第14図	遺物実測図① (1/2、1/4) ・ ・ ・ ・ ・	21
第15図	遺物実測図② (1/2、1/4) ・ ・ ・ ・ ・	22
第16図	遺物実測図③ (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	23
第17図	納楚柳遺跡周辺遺構配置図 (1/400) ・ ・ ・	25

表目次

第1表	納楚楠町遺跡第4次調査遺物観察表 ・ ・ ・ ・ ・	13
第2表	納楚柳遺跡第5次調査遺物観察表 ・ ・ ・ ・ ・	24

図版目次

図版1 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) 調査区全景 (北から)
- (2) 調査区全景 (北西から)

図版2 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) 調査区西側近景 (南から)
- (2) 調査区東側近景 (南から)

図版3 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) SD21 完掘状況 (南から)
- (2) SK22 土層断面 (北から)
- (3) SK22 完掘状況 (北西から)
- (4) SK27 完掘状況 (南西から)
- (5) ST1 土層断面 (北から)
- (6) ST1 完掘状況 (北から)
- (7) ST2 完掘状況 (東から)
- (8) ST3 検出状況 (北から)

図版4 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) ST3 完掘状況 (南東から)
- (2) ST4・5 検出状況 (南東から)
- (3) ST6 検出状況 (南東から)
- (4) ST7 検出状況 (南東から)
- (5) ST4 完掘状況 (南西から)
- (6) ST5 完掘状況 (南西から)
- (7) ST6・7 完掘状況 (南西から)
- (8) ST8 完掘状況 (南西から)

図版5 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) ST9 土層断面 (北から)
- (2) ST9 完掘状況 (北西から)
- (3) ST10 完掘状況 (東から)
- (4) ST11 土層断面 (北から)
- (5) ST11 完掘状況 (東から)
- (6) ST12 土層断面 (北から)
- (7) ST12 完掘状況 (南東から)
- (8) ST13 完掘状況 (北から)

図版6 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) ST14 検出状況 (南から)
- (2) ST14 検出状況 (北西から)
- (3) ST14 掘削状況 (北東から)
- (4) ST14 完掘状況 (北東から)
- (5) ST15 検出状況 (東から)
- (6) ST15 完掘状況 (西から)
- (7) ST16 完掘状況 (南から)
- (8) ST17 土層断面 (北東から)

図版7 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) ST17 完掘状況 (北東から)
- (2) ST18 土層断面 (西から)
- (3) ST18 完掘状況 (西から)
- (4) ST19 検出状況 (西から)
- (5) ST19 検出状況 (北から)
- (6) ST19 掘削状況 (北から)
- (7) ST19 完掘状況 (西から)
- (8) ST19 完掘状況 (北から)

図版8 納楚楠町遺跡第4次調査

- (1) ST23 検出状況 (南から)
- (2) ST23 土層断面 (南から)

- (3) ST23 木棺痕跡検出状況（南西から）
- (4) ST23 完掘状況（南西から）
- (5) ST24 土層断面（南から）
- (6) ST24 完掘状況（西から）
- (7) 調査風景（北東から）
- (8) 調査風景（南から）

図版 9 納楚楠町遺跡第 4 次調査

納楚楠町遺跡第 4 次調査遺物写真①

図版 10 納楚楠町遺跡第 4 次調査

納楚楠町遺跡第 4 次調査遺物写真②

図版 11 納楚楠町遺跡第 4 次調査

納楚楠町遺跡第 4 次調査遺物写真③

図版 12 納楚柳遺跡第 5 次調査

- (1) 調査区東側近景（東から）
- (2) 調査区西側近景（西から）

図版 13 納楚柳遺跡第 5 次調査

- (1) SB31 土層断面（南から）
- (2) SB31 床面検出状況（南から）
- (3) SB31 完掘状況（東から）
- (4) SB32 完掘状況（北西から）
- (5) SB32 完掘状況（北東から）
- (6) SD1 土層断面（南から）
- (7) SD1 完掘状況（南から）

- (8) SD25 土層断面（南から）

図版 14 納楚柳遺跡第 5 次調査

- (1) SD25 完掘状況（東から）
- (2) SD25 鉄器出土状況（東から）
- (3) SD29 土層断面（南から）
- (4) SD29 完掘状況（北西から）
- (5) SK30 完掘状況（南東から）
- (6) SB43 完掘状況（北西から）
- (7) ST16 土層断面（北西から）
- (8) ST16 完掘状況（西から）

図版 15 納楚柳遺跡第 5 次調査

- (1) ST16 赤色顔料検出状況（南西から）
- (2) ST16 完掘状況（北東から）
- (3) ST17 検出状況（北から）
- (4) ST17 完掘状況（北西から）
- (5) 納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真①

図版 16 納楚柳遺跡第 5 次調査

納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真②

図版 17 納楚柳遺跡第 5 次調査

納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真③

図版 18 納楚柳遺跡第 5 次調査

納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真④

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯と経過

納楚楠町遺跡第4次調査及び納楚柳遺跡第5次調査は、いずれも令和4年度に実施された、宅地造成に伴う開発道路部分の発掘調査である。

納楚楠町遺跡第4次調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地「納楚遺跡群」であり、八女市納楚547-1、549-1、551-1、553について、令和4年1月25日地権者から埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第93条）の提出を受けたことにより協議を開始した。事前の確認調査の結果、埋蔵文化財が確認されたことにより、道路部分の発掘調査が必要である旨回答し、令和5年5月19日から発掘調査を開始した。

弥生時代の甕棺墓等各遺構の調査を行い、令和5年6月15日空中写真撮影を行った。同年6月22日には機材を撤収し、調査を終了した。発掘調査面積は411㎡である。パンコンテナ14箱分の遺物が出土した。

納楚柳遺跡第5次調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地「納楚遺跡群」であり、八女市納楚434、435-1について、令和3年11月1日地権者から埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第93条）の提出を受けたことにより協議を開始した。事前の確認調査の結果、埋蔵文化財が確認されたことにより、道路部分の発掘調査が必要である旨回答し、令和5年7月1日から発掘調査を開始した。

各遺構の調査を行い、令和5年9月16日には機材を撤収し、調査を終了した。発掘調査面積は260㎡である。パンコンテナ15箱分の遺物が出土した。

2. 調査の体制

納楚楠町遺跡第4次調査及び納楚柳遺跡第5次調査は、以下の体制で実施した。

令和4年度（現地調査）

調査主体 八女市教育委員会

教育長	橋本 吉史				
教育部 部長	平 武文				
文化振興課長	課長	鶴木 英希			
	課長補佐	森田 尚美			
文化財係	参事補佐兼係長	片山あづさ			
	主任	永田 寧			
	係員	檀 佳克	江頭 俊介（調査担当）		
		甲斐 郁	木原 堯		
	会計年度任用職員	平 俊隆	平島 昌美	吉田ゆかり	赤司 桃子

会計年度任用職員（発掘調査作業員）

橋村照子、月足まつみ、浅田身鈴途、藤吉清満、城 勝、中村 修、内田 隆、浅田廣子、土谷さよ子、西田幸正、月足 威、眞砂依子、平島善之、福島章一、松尾由美、東 壱成、更原幸秀

令和5年度（整理作業）

調査主体 八女市教育委員会

教育長	橋本 吉史	
教育部 部長	平 武文	
文化振興課長 課長	鶴木 英希	
文化財係 課長補佐兼係長	片山あづさ	
主任	永田 寧	
係員	江頭 俊介（調査担当）	甲斐 郁
	木原 堯	鹿生子秀大
会計年度任用職員	平 俊隆	平島 昌美
		赤司 桃子

会計年度任用職員（整理作業員）

橋村照子、浅田廣子、土谷さよ子、眞砂依子、松尾由美、内田美由紀、小川剛、小川里奈、城後敏子、星野悠太、松延忠博、弓指繁子、由布淳子、吉武大輝

3. 位置と環境

福岡県八女市は、九州の北部、筑紫平野の南部に位置する。市域を東西に流れる矢部川は、九州山地の三国山に端を発し、星野川、辺春川、白木川、飯江川等を合わせ有明海に注ぐ、流域面積 647 平方キロメートルの一級河川である。

矢部川上流域は山地であり、縄文時代の遺物が散布される地域が点在するが、弥生時代以降の集落等は見つかっていない。

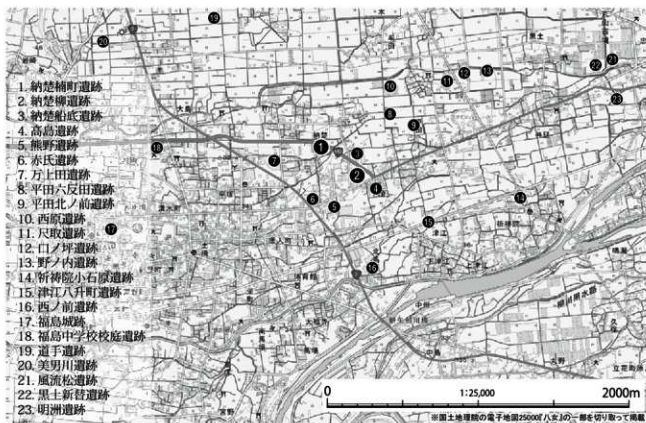
矢部川中流には、標高 20-40m の扇状平野が広がり、その最北部には標高 30-100m の八女丘陵が連なっている。この地域には遺跡が多く、特に弥生時代から古墳時代の集落や古墳が目目される。

納楚楠町遺跡第4次調査区及び納楚柳遺跡第5次調査区は、標高 37m の扇状平野に展開する納楚遺跡群の一角にあたり、国道 442 号をはさんで南北に位置する。両調査区の間には旧河川がある（納楚船底遺跡第4次調査）。

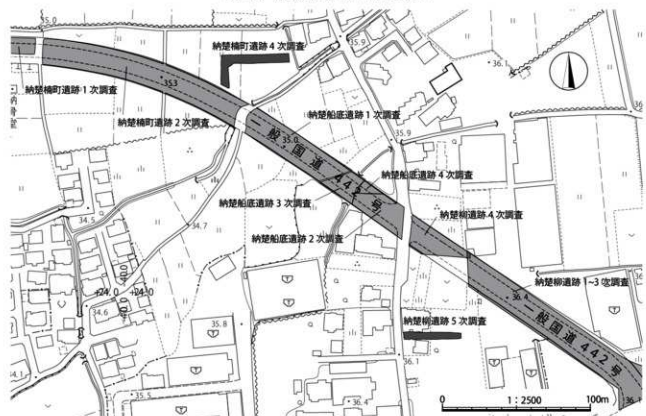
国道 442 号バイパスに伴う発掘調査（楠町遺跡 1-3 次、柳遺跡 1-4 次調査）では、縄文時代の落とし穴や弥生時代の墓域や集落、歴史時代的大型掘立柱建物、土坑、中世の溝などが見つかっている。



第1図 八女市位置図 (1/1,250,000)



第2図 周辺道跡分布図 (1/25,000)



第3図 調査区位置図 (1/2,500)

第2章 納楚楠町遺跡第4次調査

1. 調査の方法と基本層序

納楚楠町遺跡第4次調査は、重機による表土掘削後、外部委託により世界測地系座標を設定し、それをもとに調査員及び作業員が水系メッシュ法による1/100 平板図及び1/20 遺構実測図の作成を行った。遺構の掘削及び写真撮影も調査員及び発掘作業員が行った。写真撮影機材はニコンデジタルカメラである。

調査区の基本層序は、地表下約0.6mまでが灰褐色の水田耕作土である。その直下で黄褐色粘質土の自然堆積層を検出し、その上面で遺構を検出した。

2. 検出遺構

今回の調査では、古代の溝1条、時期不明の溝1条、弥生時代の土坑1基、土壇墓12基、甕棺墓8基、木棺墓1基が検出された。以下に各遺構の詳細を述べる。

古代の遺構

溝

SD1（第4・5図）

調査区南側で検出された溝である。軸はN-15°-Wである。長さ1.8m以上、幅0.5m、深さ0.2mを測る。平面形状は直線形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は9世紀の土師器が出土している。南側が調査区外へ伸びている。

時期不明の遺構

SD21（第4・5図）

調査区西側で検出された溝である。軸はN-95°-Wである。長さ3.2m以上、幅0.3m以上、深さ0.1mを測る。平面形状は方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。複数のピットに切られる。遺物は出土していない。

弥生時代の遺構

土坑

SK22（第4・5図）

調査区中央で検出された土坑である。長さ1.2m、幅1.2m、深さ0.6mを測る。平面形状は円形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST9に切られる。遺物は出土していない。

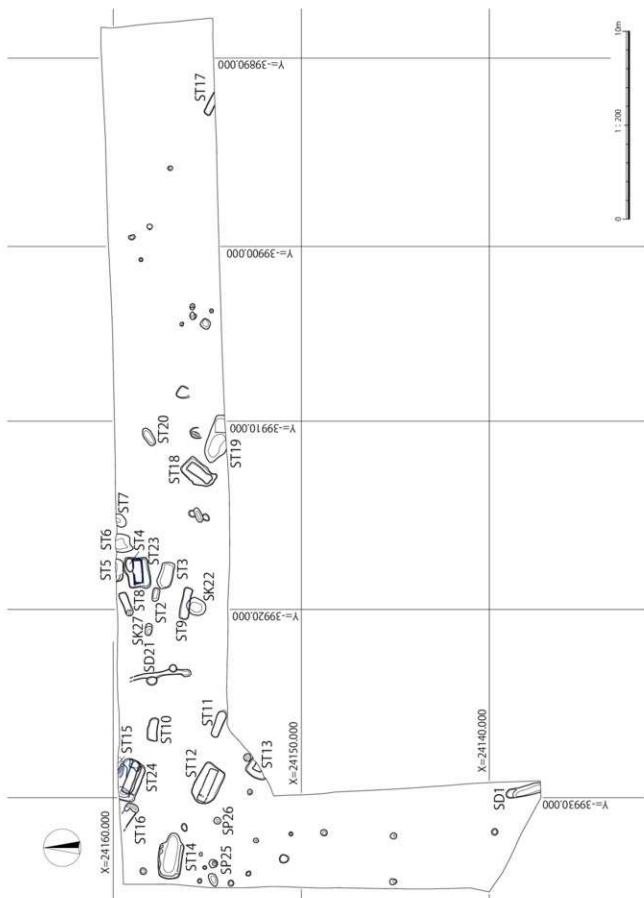
SK27（第4・5図）

調査区中央で検出された土坑である。長さ0.6m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は出土していない。小児用の土壇墓の可能性もあるが判然としない。

土壇墓、甕棺墓、木棺墓

ST2（第4・5図）

調査区中央で検出された土壇墓である。軸はN-80°-Wである。長さ0.7m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。平面形状は長楕円形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は弥生時代中期の甕片が出土している。軸方向を周辺の土壇墓と同じくしており、小



第4図 納楚楠町遺跡第4次調査遺構配置図(1/200)

児用の土壌墓と推定した。

ST3 (第4・5図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN - 75° - Wである。長さ1.5m、幅0.7m、深さ0.1mを測る。平面形状は隅丸方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。甕棺以外の遺物はない。棺甕は日常用の甕（小児棺）であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。

ST4 (第4・5図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN - 80° - Wである。長さ0.7m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。平面形状は円形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST23を切っている。甕棺以外の遺物はない。棺甕は日常用の甕（小児棺）であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。

ST5 (第4・5図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN - 90°である。長さ1.2m以上、幅0.4m、深さ0.1mを測る。平面形状は隅丸方形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。甕棺以外の遺物はない。棺甕は日常用の甕（小児棺）であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。

ST6 (第4・5図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN - 0°である。長さ1.0m以上、幅0.9m、深さ0.3mを測る。平面形状は不定形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。甕棺以外の遺物はない。棺甕は日常用の甕（小児棺）であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。棺の合わせ部に粘土による目張りが見られる。

ST7 (第4・5図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN - 23° - Eである。長さ0.7m以上、幅0.6m、深さ0.3mを測る。平面形状は楕円形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。甕棺以外の遺物はない。棺甕は日常用の甕（小児棺）であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。

ST8 (第4・5図)

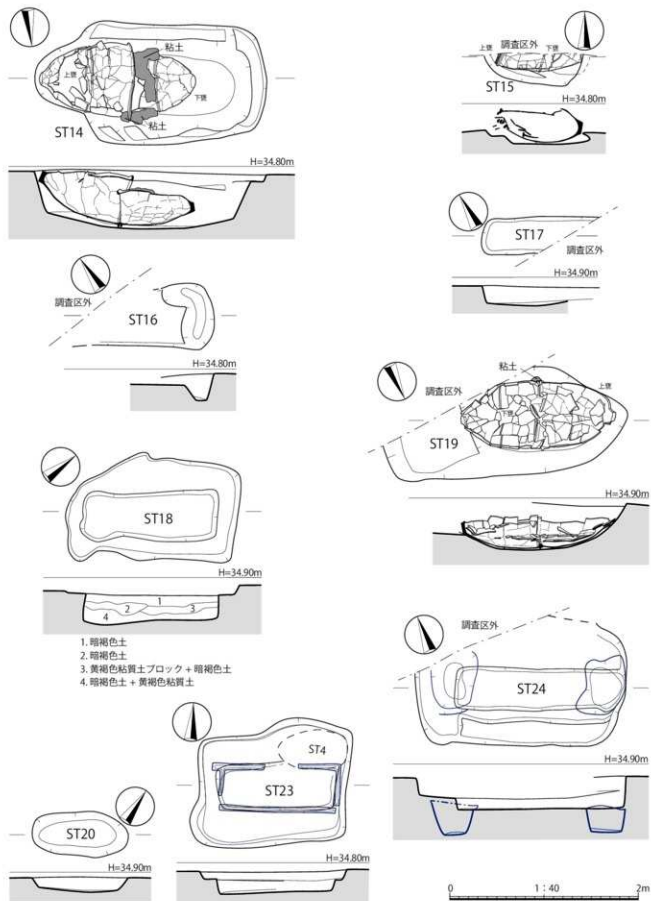
調査区中央で検出された土壌墓である。軸はN - 65° - Eである。長さ1.3m、幅0.4m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は出土していない。形状、埋土がST11に類似しており、弥生時代の可能性がある。

ST9 (第4・5図)

調査区中央で検出された土壌墓である。軸はN - 80° - Wである。長さ1.9m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST22を切る。遺物は出土していない。形状、軸方向、埋土がST11に類似しており、弥生時代の可能性がある。

ST10 (第4・5図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN - 95° - Wである。長さ1.2m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は出土していない。形状、深さ、軸方向、埋土がST11に類似しており、弥生時代の可能性がある。



第6図 遺構実測図② (1/40)

ST11 (第4・5図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN - 70° - Wである。長さ1.4m、幅0.5m、深さ0.5mを測る。平面形状は長方形、断面形状は東側が袋状に深くなる逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は弥生時代の甕片が出土している。

ST12 (第4・5図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN - 65° - Wである。長さ2.2m、幅1.4m、深さ0.2mを測る。平面形状は長方形、断面形状は段を有する逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は弥生時代の甕片が出土している。底部に木棺の痕跡は見られない。段を有するため、木蓋土壌墓の可能性はある。

ST13 (第4・5図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN - 60° - Wである。長さ0.8m以上、幅1.1m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は段を有する逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物の出土はないが、ST12に形状と軸方向が類似しており、弥生時代の可能性はある。底部に木棺の痕跡は見られない。段を有するため、木蓋土壌墓の可能性はある。

ST14 (第4・6図)

調査区西側で検出された甕棺墓である。軸はN - 83° - Wである。長さ2.5m、幅1.3m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は有段逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。甕棺以外の遺物はない。棺甕は成人棺であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。甕の合わせ部周辺に粘土の目張りが見られる。

ST15 (第4・6図)

調査区西側で検出された甕棺墓である。軸はN - 90°ある。長さ1.2m以上、幅0.3m以上、深さ0.4mを測る。平面形状は長方形、断面形状は有段逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST24に切られる。遺物は出土していないが、棺甕は成人棺であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。

ST16 (第4・6図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN - 58° - Wである。長さ1.5m以上、幅0.7m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は出土していない。形状、深さ、軸方向、埋土がST11に類似しており、弥生時代の可能性はある。

ST17 (第4・6図)

調査区東側で検出された土壌墓である。軸はN - 68° - Eである。長さ1.2m、幅0.4m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は出土していない。形状、深さ、軸方向、埋土がST11に類似しており、弥生時代の可能性はある。

ST18 (第4・6図)

調査区中央で検出された土壌墓である。軸はN - 60° - Wである。長さ1.8m、幅0.3m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は段を有する逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物の出土はないが、ST12に形状が類似しており、弥生時代の可能性はある。底部に木棺の痕跡は見られない。段を有するため、木蓋土壌墓の可能性はある。

ST19 (第4・6図)

調査区中央で検出された甕棺墓である。軸はN-62°-Wである。長さ2.6m、幅1.0m、深さ0.5mを測る。平面形状は楕円形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。棺甕は成人棺であり、合わせ口に設置されている。弥生時代中期の年代が得られる。甕の合わせ部の周辺に粘土の目張りが見られる。

ST20 (第4・6図)

調査区中央で検出された土壌墓である。軸はN-55°-Eである。長さ1.0m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。平面形状は楕円形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。切り合い関係はない。遺物は弥生時代の甕片が出土している。

ST23 (第4・6図)

調査区中央で検出された木棺墓である。軸はN-80°-Eである。長さ1.6m、幅1.2m、深さ0.2mを測る。平面形状は長方形、断面形状は有段逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST4に切られる。遺物は弥生時代の甕片が出土している。底部に暗灰色の粘土による木棺痕跡を有している。

ST24 (第4・6図)

調査区西側で検出された土壌墓である。軸はN-70°-Wである。長さ2.3m、幅1.4m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は段を有する逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST15に切られる。遺物の出土はないが、ST12に形状と軸方向が類似しており、弥生時代の可能性がある。底部に木棺の痕跡は見られない。段を有するため、木蓋土壌墓の可能性はある。

3. 出土遺物 (第7～9図、第1表)

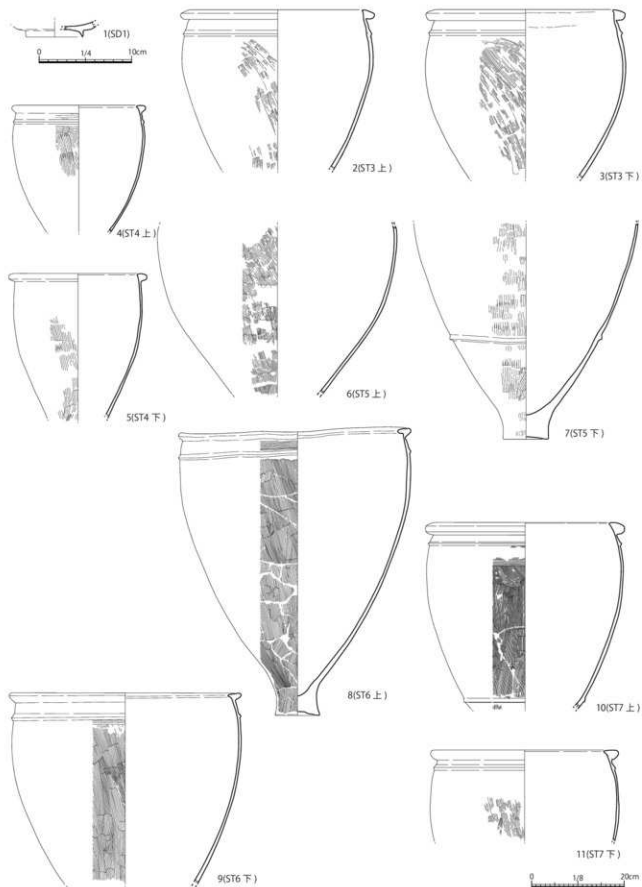
今回の調査では、パンコンテナー14箱の遺物が出土した。弥生時代の甕棺がほとんどであり、土壌墓や木棺墓からの遺物の出土は少ない。また、ST1からは奈良時代の遺物が出土している。各遺物の寸法等の詳細は遺物観察表を参照願う。

SD1出土の土師器(1)は椀である。底部のみ残存する。高台は細く、やや内湾する。10世紀代の所産と考えられる。全体に摩滅がひどい。

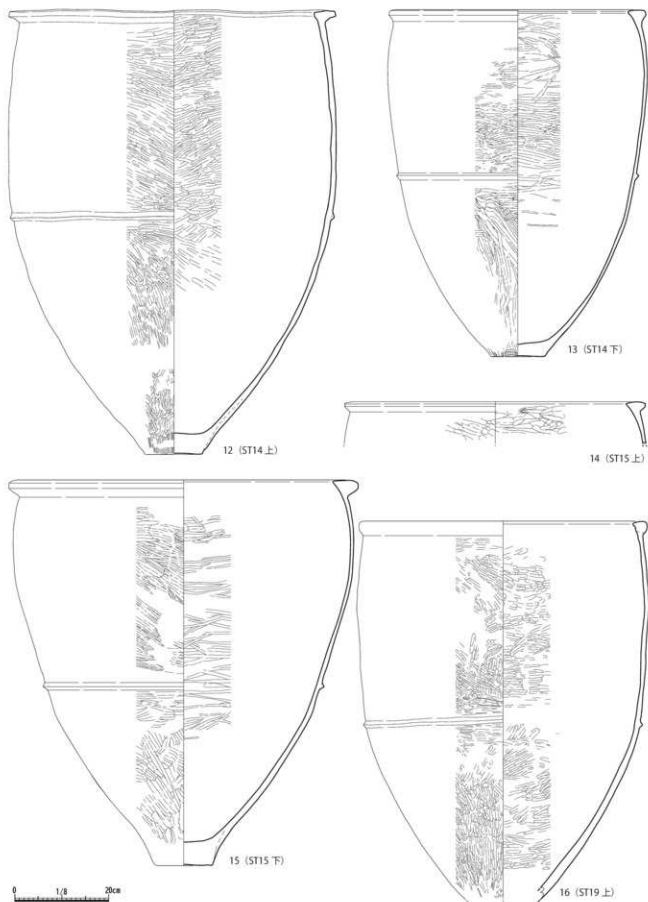
ST3-7の小児棺(2-11)は、いずれも弥生土器の日常用の甕である。口縁は断面三角形を呈する、いわゆる三角口縁である。胴部上位に断面三角形の一条の突帯を有する。底部は残存していないものが多いが、完形のもの(8)から推測すれば、底径は小さくわずかに上げ底を呈すると考えられる。胴部下半に一条の突帯を有する個体(7)もある。最大径は胴部上位にある。器面調整はハケメが施される。いずれの甕も筑後地方の弥生時代中期前半の甕のプロポーションを呈しており、橋口編年(橋口2005)「KⅡa式甕棺併行期の日常容器」である。

ST14・15・19は成人用の甕棺である。それぞれ上下の甕が合わせ口で設置されていた。ST14上甕(12)は、T字口縁を呈し、内外両面にヘラミガキが施されている。ST14下甕(13)、ST15上下甕(14、15)、及びST19上下甕(16、17)は、いずれも三角口縁を呈し、内外両面にヘラミガキが施されている。これらは、橋口編年(橋口2005)における「KⅡa式の地方色のある甕棺Ⅰ」に相当し、筑後、肥後北部、肥前(佐賀地方)を中心に、小郡市三国丘陵から熊本県玉名市にかけて見られる甕棺である。本調査区出土の成人棺はすべて内外面にヘラミガキを施すことが特徴である。

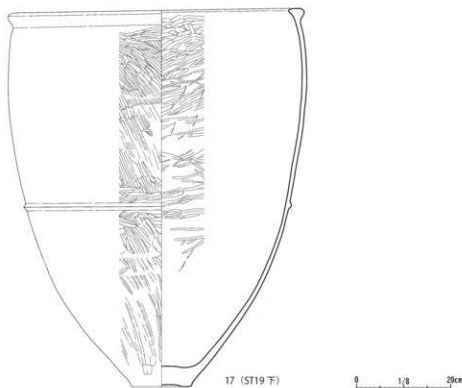
参考文献: 橋口達也『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣2005



第7図 遺物実測図① (1/4、1/8)



第8図 遺物実測図② (1/8)



第9図 遺物実測図③ (1/8)

第1表 納楚楠町遺跡第4次調査遺物観察表

遺物 番号	図番号	出土 遺構	材質	種類	法量 口徑(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(深) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 断面・底面・ 内面・外底等	胎土	備考	登録 番号
1	第7図	SO1	土師器	椀		(6.0)	(1.7)	橙	橙	ナデ	ナデ		粗砂・赤色粘土		R1
2	第7図	ST3	弥生土器	甕	(41.7)		(34.5)	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ	ナデ		緑・赤色粘土・石英	上蓋	R2
3	第7図	ST3	弥生土器	甕	(38.3)		(36.4)	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ	ナデ		緑・赤色粘土・石英	下蓋	R3
4	第7図	ST4	弥生土器	甕	(28.8)		(27.3)	にぶい黄褐色	黄褐色	ナデ・ハケメ	ナデ		粗砂・石英	上蓋	R4
5	第7図	ST4	弥生土器	甕	(29.8)		(31.7)	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ	不明		緑・赤色粘土・石英・角 閃石	下蓋	R5
6	第7図	ST5	弥生土器	甕			(36.0)	橙	橙	ハケメ	不明		緑	上蓋	R6
7	第7図	ST5	弥生土器	甕		(9.8)	(46.4)	浅黄褐色	オリーブ黒	ハケメ・ナデ	ナデ		緑・赤色粘土・石英	下蓋	R7
8	第7図	ST6	弥生土器	甕	(50.2)	9.6	62.0	橙	橙	ハケメ・ヨコナ デ	ナデ		粗砂・石英・長石・角閃 石・雲母	上蓋	R8
9	第7図	ST6	弥生土器	甕	50.0		(41.4)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ		粗砂・石英・長石・角閃 石・雲母	下蓋	R9
10	第7図	ST7	弥生土器	甕	(42.8)		(40.4)	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ		粗砂・石英・長石・角閃 石・雲母	上蓋	R10
11	第7図	ST7	弥生土器	甕	(40.5)		(19.6)	にぶい橙	黄褐色	ハケメ	不明		緑・赤色粘土・石英・角 閃石	下蓋	R11
12	第8図	ST14	弥生土器	甕	(69.6)	12.3	94.0	にぶい橙	にぶい黄褐色	ハケメ・ミガキ・ヨコ ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ナデ	緑・赤色粘土・石英・角 閃石	上蓋	R12
13	第8図	ST14	弥生土器	甕	(54.4)	11.6	73.5	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ミガキ・ナデ		粗砂・石英・長石・角閃 石・雲母	下蓋・内面・外面に一 部黒斑あり	R13
14	第8図	ST15	弥生土器	甕	(63.8)		(9.0)	浅黄褐色	にぶい橙	ヨコナデ・ミガ キ	ミガキ		粗砂	上蓋	R14
15	第8図	ST15	弥生土器	甕	(74.0)	12.0	81.7	橙	橙	ナデ・ミガキ	ナデ		粗砂・石英・長石・角閃 石・雲母	下蓋	R15
16	第8図	ST19	弥生土器	甕	(61.0)		(80.2)	橙	にぶい橙	ナデ・ミガキ ヨコナデ・ミガ キ	ミガキ		緑・赤色粘土・石英	上蓋	R16
17	第9図	ST19	弥生土器	甕	62.8	13.0	79.2-80.2	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ・工具・ナデ	ナデ		粗砂・赤色粘土	下蓋・外面に一部黒 斑あり	R17

4. まとめ

今回の調査では、411㎡の調査区から、古代の溝1条、時期不明の溝1条、弥生時代の土坑1基、土壇墓12基、甕棺墓8基、木棺墓1基が検出された。遺物の観察をもとに各遺構の時期及び性格について述べる。

まず弥生時代中期前半の遺構は小児甕棺墓ST3-7、成人甕棺墓ST14、15、19である。小児棺はいずれも城ノ越式の日常容器の甕である。橋口編年（橋口2005）における「KⅡa式併行期の小児棺」である。成人棺は甕棺専用で作成された大型のものである。内外両面にヘラミガキが施される独特なものであり、全体的なプロポーションは、橋口編年（橋口2005）における「KⅡa式の地方色のある甕棺1」第14図2の熊本県年の神遺跡（玉名市）出土品に近い。

ST2、8-13、16-18、20、24の土壇墓や、ST23木棺墓は、甕棺墓群と同様に軸方向を西北西-東南東方向にとり、甕棺墓群と一体として墓群をなすものと考えられることから、時期も甕棺墓同様弥生時代中期前半のものである可能性が高い。また、これらの墓群は列埋葬を成すことから、比較的短い期間のうちに形成されたものと考えられる。

次に古代の溝について述べる。調査区南端に検出された溝SD1の深さは0.2mであり、遺物は10世紀の土師器碗が出土している。既存の調査区と図面を合成すると、南延長上に第2次調査第10地点のSD07が続いていることがわかる。報告によると、幅0.45m、深さ0.3mとあり、遺物は出土していない。位置と軸方向、深さから、SD1と第2次調査第10地点SD07は、同一遺構と考えられる。

納楚遺跡群における弥生時代中期前半の遺構を概観してみる。納楚楠町遺跡第2次調査第3地点でも墓群が確認されている（八女市文化財調査報告書第84・87集）が、甕棺の時期が総じて新しく、弥生時代中期後半のものであり、墓群の軸方向も南北方向を呈することから、今回の調査で検出された墓群とは異なるものとみられる。納楚楠町遺跡には他に当該期の遺構はない。納楚柳遺跡では、第1次調査第1-3地点の円形竪穴建物SBO1及び、柳遺跡第2次調査第4地点の土坑群と溝がある。また、今回報告する納楚柳遺跡第5次調査区SD25でも当該時期から中期後半までの遺物が出土している。

南東に隣接する高島遺跡（第52集）では、弥生時代中期前半の竪穴建物、土坑などが多く検出されている。おそらく高島遺跡一帯に集落を持つ集団の墓域が今回検出されたものと考えられる。

市内の他の遺跡に目を向けてみると、亀ノ甲遺跡や室岡山ノ上遺跡、西山ノ上遺跡など八女丘陵上で弥生時代前期後半から中期前半の竪穴建物群及び甕棺墓群が確認されている。また、市南部の低地では、新庄六反田遺跡第1次調査第2地点（第104集）で100基以上の列埋葬をなす甕棺墓群が確認されており、小児棺の形式から中期前半であることがわかるものの、甕棺墓群の遺物実測図等が未報告であり、詳細は不明である。そのほか、野田遺跡（第122集）、松ノ本遺跡（第124集）、茶ノ木ノ本遺跡（第140集）、アモメ遺跡（第126集）など、市南部に所在する酒井田地区の低地において、広範囲に中期の甕棺墓群及び集落が確認されている。野田遺跡の墓群はやや時期が新しく、中期後半から後期前半のものである。松ノ本遺跡B地点の列埋葬をなす墓群は、本調査区同様中期前半のものである。小児棺は本調査区と共通した特徴を有するが、成人棺は、三角口縁を呈し、胴下半に一条の突帯を巡らせるものであり、器形は本調査区と同様であるものの、ヘラミガキを施さない点は、本調査区のものとは異なっている。アモメ遺跡では、本調査区同様中期前半の建物や土坑が確認されている。



第10図 納楚楠町遺跡周辺遺構配置図 (1/400)

第3章 納楚柳遺跡第5次調査

1. 調査の方法と基本層序

納楚柳遺跡第5次調査は、重機による表土掘削後、外部委託により世界測地系座標を設定し、それをもとに調査員及び作業員が水系メッシュ法による1/100平板図及び1/20遺構実測図の作成を行った。遺構の掘削及び写真撮影も調査員及び発掘作業員が行った。写真撮影機材はニコンデジタルカメラである。

調査区の基本層序は、東側に向かって下方に傾斜している。調査区東端では、地表下約1.5mまでが黄褐色砂や暗褐色粘質土などの表土である。その直下で黄褐色粘質土の自然堆積層を検出し、その面で遺構を検出した。調査区中央では地表下1.0m、西側では地表下0.8mで同じく黄褐色粘質土の自然堆積層を検出し、その上面で遺構を検出した。

2. 検出遺構

今回の調査では、弥生時代の竪穴状遺構3基、溝3条、土坑1基、土壌墓2基、ピット複数が検出された。以下に各遺構の詳細を述べる。

竪穴状遺構

SB31（第11・12図）

調査区西側で検出された竪穴状遺構である。長さ4.0m、幅1.6m以上、床面までの深さ0.2m、堀方底面までの深さ0.5mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SK43を切る。遺物は弥生時代中期前半の土器石器等が出土している。

SB32（第11・12図）

調査区西側で検出された竪穴状遺構である。長さ2.4m以上、幅1.9m、深さ0.3mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SD29を切る。遺物は弥生時代中期前半の土器が出土している。

SB43（第11・12図）

調査区西側で検出された竪穴状遺構である。長さ2.5m、幅0.8m、深さ0.4mを測る。平面形状は不整形、断面形状は逆三角形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SB31に切られる、SK30を切る。遺物は弥生時代中期の土器、鉄製品等が出土している。

溝

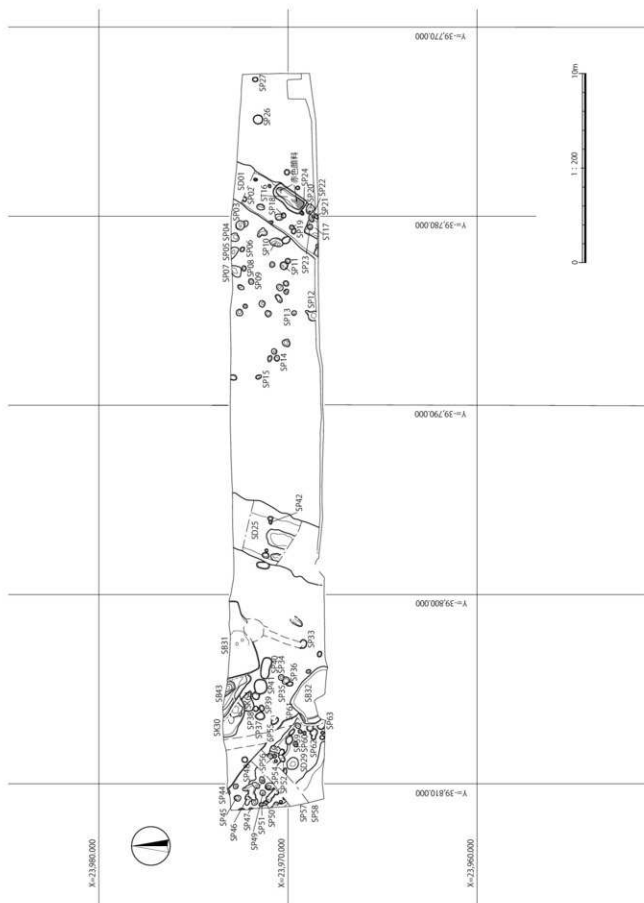
SD1（第11・12図）

調査区東側で検出された溝である。軸はN-32°-Eである。長さ5.2m以上、幅2.1m以上、深さ0.2mを測る。平面形状は直線状、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。ST16、ST17を切る。遺物は弥生時代中期前半と後期後半の土器が出土している。

SD25（第11・12図）

調査区中央で検出された溝である。軸はN-20°-Eである。長さ5.2m以上、幅2.4m、深さ0.8mを測る。平面形状は直線状、断面形状は逆台形を呈する。埋土は9層に分かれる。ピットを切る。遺物は弥生時代中期前半の土器、磨製石剣等が出土している。

SD29（第11・12図）



第11図 納楚柳遺跡第5次遺構配置図(1/200)

調査区西端で検出された溝である。軸はN - 50° - Wである。長さ6.6m以上、幅4.2m以上、深さは北東端で0.1m、南西端で0.7mを測る。平面形状は直線状を呈し、底面は無数のビットを有し、緩く南西側調査区外へ向かって下方に傾斜する。埋土は10層に分かれる。SB32に切られる。遺物は弥生時代中期中頃から中期後半の土器が出土している。緩い傾斜角度や、底面に群集するビットの存在から、自然流路の可能性がある。

土坑

SK30 (第11・12図)

調査区西側で検出された土坑である。長さ2.1m、幅0.8m、深さ0.4mを測る。平面形状は不整形円形、断面形状は半円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SB43に切られる。遺物は弥生時代中期中頃～中期後半の土器、土製紡錘車等が出土している。

土墳墓

ST16 (第11・13図)

調査区東側で検出された土墳墓である。軸はN - 38° - Eである。長さ1.8m、幅0.9m、深さ0.5mを測る。平面形状は長方形、断面形状は有段逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SD1に切られる。遺物は弥生時代中期前半の土器が出土している。底面の南北両端に赤色顔料が検出されている。段を有することから、木蓋があった可能性がある。

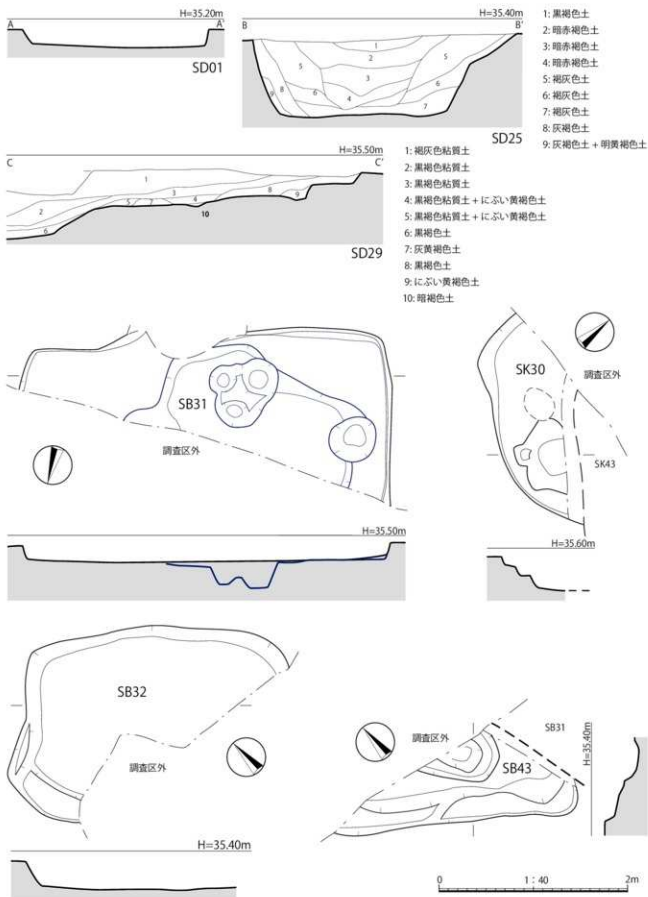
ST17 (第11・13図)

調査区東側で検出された土墳墓である。軸はN - 24° - Eである。長さ0.9m以上、幅0.9m、深さ0.2mを測る。平面形状は長方形、断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。SD1に切られる。遺物は出土していないが、軸方向や形状、深さ、埋土がST16に類似しており、同時期の可能性がある。

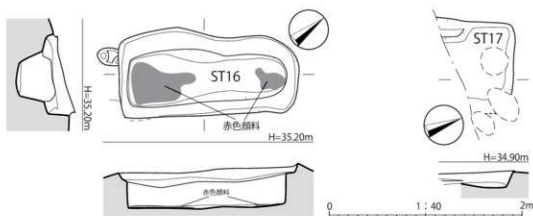
3. 出土遺物 (第14～16図、第2表)

今回の調査では、パンコンテナー15箱分の遺物が出土した。すべて弥生時代の遺物である。

SB31出土の1は、弥生土器の甕である。2、4は壺である。いずれも中期前半の所産である。3は黒曜石製の鏃である。SB32出土の5、6は弥生土器の甕である。5は三角口縁を呈し、中期前半の所産である。7、8は壺である。SB43出土の9は弥生土器の甕、10は壺である。弥生時代中期前半の所産である。SD1出土の11は弥生土器の甕である。くの字口縁を呈し、後期の所産である。12、13は中期の甕、14、21は後期の小型の甕、15は壺、16、17、19、20は甕、18は後期の台付甕の底部である。22、23は中期の高坏、24はミニチュア土器である。25は石錘である。SD25出土の26-31は弥生時代中期前半の甕である。32は壺、33は土製支脚である。34は堆積岩製の柱状挟入石斧である。35は砂岩製の砥石である。36は砂岩製の磨石である。37は石英長石斑岩製の砥石である。38は堆積岩製の磨製石剣である。39は鉄鏃、40は黒曜石製の鏃である。SD29出土の41-46は弥生時代中期後半～後期前半の甕である。47、48は丹塗りの高坏である。49は片岩製の磨製石鏃である。ST16出土の50-53は弥生時代中期前半の甕である。SK30出土の54は弥生時代中期中頃の甕、55は土蓋、56は器台、57は土製紡錘車である。包含層出土の58は鉄鏃である。各遺物の法量、調整等の詳細は観察表を参照願う。



第12図 遺構実測図① (1/40)



第13図 遺構実測図② (1/40)

4. まとめ

今回の調査では、弥生時代の竪穴状遺構3基、溝3条、土坑1基、土壇墓2基、ピット複数が出された。各遺構の時期について述べる。

弥生時代中期前半の遺構はSB31、SB32、SB43、SD25、ST16である。ST17は遺物の出土はないが、ST16と軸方向を同じくしており、同一時期の可能性がある。

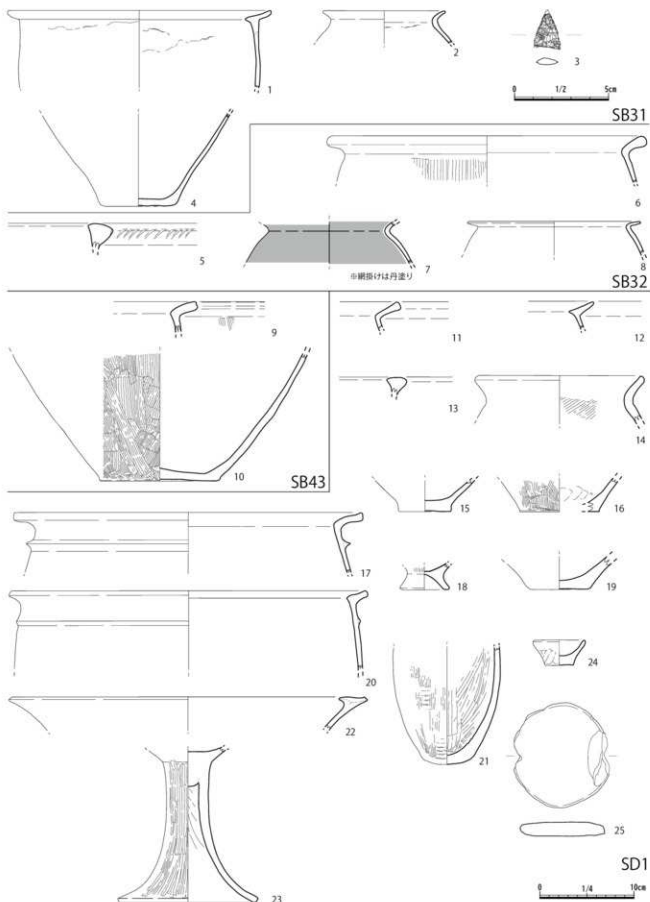
弥生時代中期中頃から後期前半の遺構は、SD29とSK30である。

弥生時代後期後半の遺構はSD1である。SD1は、中期前半、中期後半、後期前半、後期後半いずれの時期の遺物も出土しているが、最終埋没時期はもっとも新しい遺物から、後期後半と考えられる。

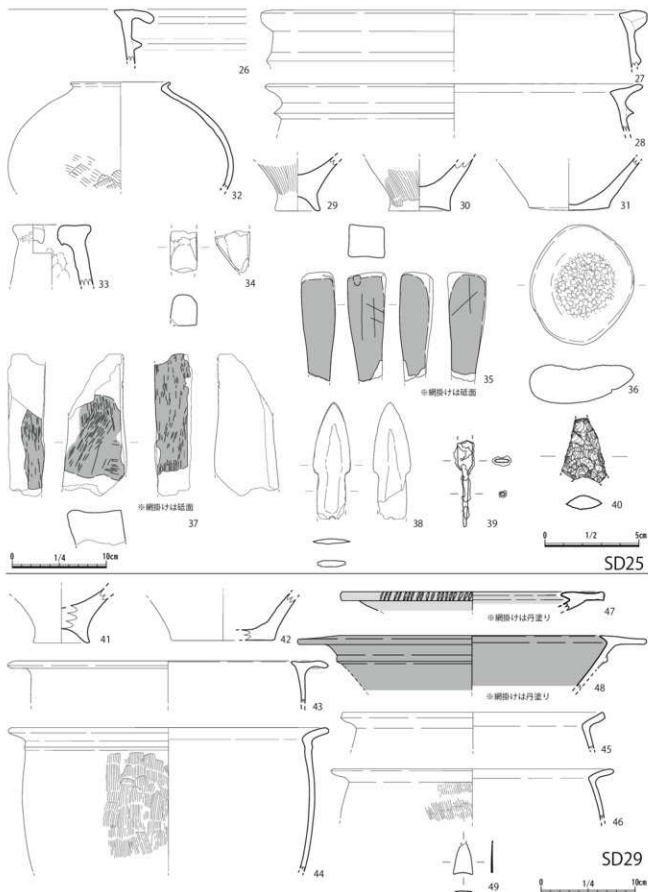
本調査区から半径100m以内の調査地を概観すると、国道442号バイパス建設に伴う柳遺跡第1次調査第1地点で弥生時代中期前半の円形竪穴建物群が確認されている。柳遺跡第3次では中期後半の竪穴建物群が確認されている。船底遺跡第1次調査では自然流路SD01から弥生時代中期前半から後期の遺物が出土している。柳遺跡第2次調査第5地点では弥生時代中期前半の土坑群及び中期中頃～後半の方形竪穴建物群が確認されている。また、第17図のとおり、柳遺跡第2次調査第5地点には、北北東へ伸びる弥生時代中期の溝SD13があり、軸方向、逆台形をなす断面形状、遺物の時期等から、本調査区SD25と同一の遺構である可能性が高い。

次に半径500m以内を見てみると、本調査区から東方500m付近の平田六反田遺跡第1次・平田北ノ前遺跡第1次調査や、南東方300m付近の津江八升町遺跡第1～4次調査で弥生時代後期後半の集落が確認されている。南東方200mの高島遺跡第1・2次調査では弥生時代中期前半の円形竪穴建物や「取水土壇群」、土坑などが確認されている。西方200mの赤氏遺跡では、弥生時代中期の竪穴建物、土坑、墓域などが密に確認されている。また、同調査区に弥生時代後期の竪穴建物群も密に確認されている。赤氏遺跡から南方100mの熊野遺跡でも同様に弥生時代の集落と墓域が大規模に確認されているが、概報のみの報告であり、詳細な時期等は不明である。

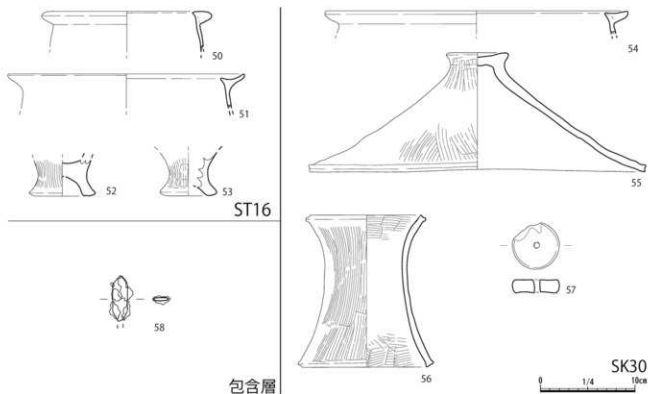
以上のように、弥生時代中期前半及び後期後半をピークとして長期間存続するとみられる集落及び墓域は、本調査区周辺に広く展開しており、今回の調査でもその一端を確認したものと考えられる。ただし、周辺の調査区は概報のみの報告が多く、環濠の位置や集落の範囲、時期による変遷など不明な点が多い。



第14図 遺物実測図① (1/2、1/4)



第15図 遺物実測図② (1/2、1/4)



包含層

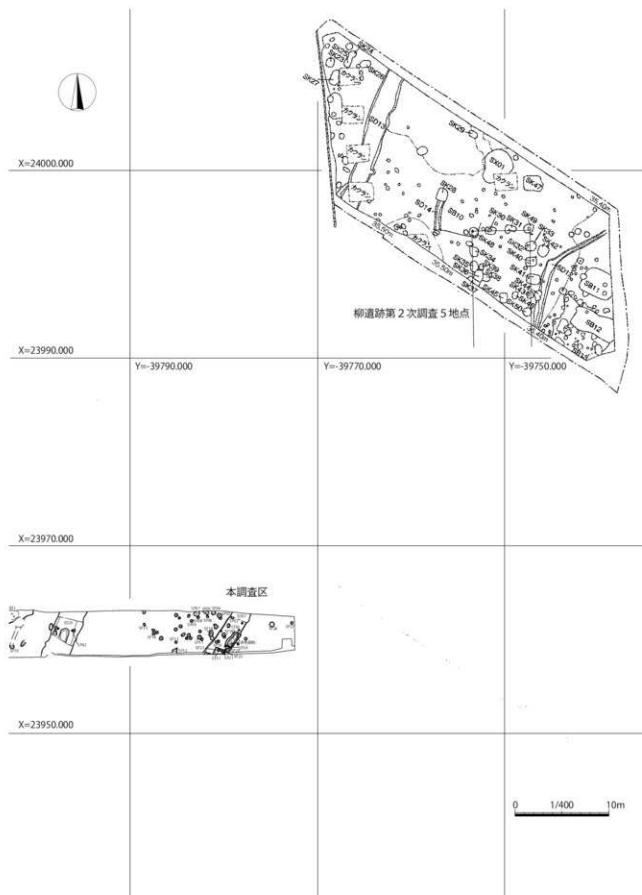
第16図 遺物実測図③(1/4)

第2表 納楚柳遺跡第5次調査遺物観察表

遺物 番号	調査号	出土遺構	材質	形状	口径(長) (cm)	底径(幅) (cm)	高さ(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	両面(文様) 外面	両面(文様) 内面	両面(文様) 表面	胎土	備考	登録 番号	
1	第14区	G031	粘土土器	壺	(38.0)		18.2	橙	橙	不明	不明		焼赤色粘土、角閃石		R51	
2	第14区	G031	粘土土器	壺	(33.0)		(3.5)	橙	橙	ナズ、赤色化粧土	ナズ、赤色化粧土		焼赤色粘土、角閃石		R52	
3	第14区	G031	石製品	壺	(1.85)	1.4	0.35	黒					黒曜石	重量0.9g	R54	
4	第14区	G031	粘土土器	壺			7.9	19.8	にじみ・黄緑	にじみ・黄緑			焼石灰		R53	
5	第14区	G032	粘土土器	壺			(2.8)	橙	橙	ナズ、不明	ナズ		焼石灰、赤色粘土		R56	
6	第14区	G032	粘土土器	壺	(32.8)		14.5	にじみ・橙	黄緑	ナズ、ハケメ	不明		焼石灰、赤色粘土		R55	
7	第14区	G032	粘土土器	壺			14.0	黄緑	黄緑	内塗り、ナズ	内塗り、ナズ		焼石灰、黄緑		R57	
8	第14区	G032	粘土土器	壺	(38.4)		(3.0)	橙	橙	ナズ	ナズ		焼石灰、角閃石、赤色粘土	内面に黄緑あり	R58	
9	第14区	G043	粘土土器	壺			(3.2)	灰緑	黄緑	ナズ、ハケメ	ナズ		焼石灰、角閃石、黄緑		R60	
10	第14区	G043	粘土土器	壺		12.8	(13.3)	にじみ・橙	にじみ・橙	ハケメ	ナズ	ナズ	焼石灰、黄緑、角閃石		R59	
11	第14区	SD1	粘土土器	壺			(3.1)	にじみ・橙	橙	ナズ	ナズ		焼石灰	内面に黄緑あり	R3	
12	第14区	SD1	粘土土器	壺			(3.0)	にじみ・橙	にじみ・橙	不明	不明		焼石灰		R4	
13	第14区	SD1	粘土土器	壺			(1.5)	黄緑	黄緑	不明	不明		焼石灰、黄緑		R8	
14	第14区	SD1	粘土土器	壺	(38.0)		(5.1)	黄緑	黄緑	ナズ、ナズ	ナズ、ナズ		焼石灰、角閃石		R13	
15	第14区	SD1	粘土土器	壺			5.2	(3.3)	にじみ・橙	にじみ・橙	ナズ	ナズ	ナズ	焼石灰、黄緑、角閃石、黄緑		R2
16	第14区	SD1	粘土土器	壺		(8.5)	(3.0)	黄緑	黄緑	ハケメ	ナズ	ナズ	焼石灰		R9	
17	第14区	SD1	粘土土器	壺	(37.0)		(6.5)	にじみ・橙	にじみ・橙	ナズ	ナズ		焼石灰、角閃石、赤色粘土		R12	

第2表 納楚柳道跡第5次調査遺物観察表

遺物 番号	図番	出土 遺物	材質	形状	C径(長) (cm)	直径(幅) (cm)	高さ(厚) (cm)	色調 表面	色調 内面	調整(文様) 表面	調整(文様) 内面	調整(文様) 表面	出土 状況	備考	数量
18	第14区	S01	粘土土器	白付壺		3.2	(12.8)	にじい色	褐色	ハケメ・平刷	ナデ	不明	細砂、石灰、赤色粘土		R14
19	第14区	S01	粘土土器	壺		6.0	(13.3)	褐色	褐色	ナデ	ナデ	ナデ	細砂、石灰、赤石		R11
20	第14区	S01	粘土土器	壺	(38.0)		(8.3)	にじい色	にじい色	平刷	平刷	平刷	細砂、石灰、赤石		R15
21	第14区	S01	粘土土器	壺			(12.5)	赤褐色	にじい色	タタキ後ハケメ	ハケメ	タタキ後ハケメ	赤褐色粘土、石灰、赤石	内面に黒線あり	R19
22	第14区	S01	粘土土器	蓋形	(38.0)		(12.5)	にじい色	褐色	ナデ	ナデ	ナデ	赤石		R18
23	第14区	S01	粘土土器	蓋形		14.4	(16.5)	明赤色	明赤色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	赤砂、赤色粘土	調整内面ナデ、ナデ	R1
24	第14区	S01	「ニニヤム」土器	壺	(5.6)	(13.0)	2.7	明褐色	明褐色	ナデ、反オサエ	ナデ	ナデ	細砂、石灰、赤石、赤褐色、赤石	内面に黒線あり	R16
25	第14区	S01	石製品	石槌	11.1	10.2	1.4	灰オリーブ					赤石	重量750g	R6
26	第15区	S025	粘土土器	壺			(6.1)	褐色	褐色	ナデ、ハケメ、タタキ	ナデ	ナデ	赤、石灰、赤色粘土		R23
27	第15区	S025	粘土土器	壺	(41.0)		(8.1)	にじい色	にじい色	ナデ	平刷	平刷	赤砂、赤色粘土、石灰		R21
28	第15区	S025	粘土土器	壺	(40.0)		(5.0)	にじい色	にじい色	平刷	平刷	平刷	赤、石灰、赤褐色、赤石		R22
29	第15区	S025	粘土土器	壺		4.8	(5.7)	褐色	にじい色	ハケメ	平刷	ナデ	赤砂、赤石、赤褐色、赤石		R24
30	第15区	S025	粘土土器	壺		6.8	(5.5)	にじい色	赤褐色	ハケメ	ナデ	ナデ	赤砂、石灰、石灰、赤褐色、赤石、赤褐色、赤石	内面に黒線あり	R25
31	第15区	S025	粘土土器	壺		(8.5)	(5.6)	明赤色	にじい色	ナデ	ナデ	ナデ	赤、石灰、赤褐色、赤石		R26
32	第15区	S025	粘土土器	壺	(10.4)		(11.4)	にじい色	にじい色	平刷、ハケメ	平刷	平刷	赤、石灰、赤褐色、赤石		R27
33	第15区	S025	土製品	土製	(8.1)		(6.4)	にじい色	にじい色	平刷	ナデ、反オサエ	ナデ	赤、石灰、赤褐色、赤石		R28
34	第15区	S025	石製品	特殊片羽石	(4.4)	(3.6)	2.8	灰オリーブ					赤褐色	重量66.2g	R32
35	第15区	S025	石製品	硯石	(11.5)	1.6	2.8	赤褐色					赤石	重量240g	R33
36	第15区	S025	石製品	硯石	12.7	11.0	4.0	赤褐色					赤石	重量710g	R35
37	第15区	S025	石製品	硯石	(15.0)	6.8	3.7	赤褐色					石灰、赤褐色	重量510g	R34
38	第15区	S025	石製品	磨製石	(12.35)	4.0	0.7	赤褐色					赤褐色	重量38.5g	R36
39	第15区	S025	石製品	硯	(8.1)	1.9	1.1	赤褐色					赤褐色	重量12.0g	R36
40	第15区	S025	石製品	硯	(3.4)	(3.4)	0.8	赤					赤石	重量5.1g	R38
41	第15区	S029	粘土土器	壺		(6.0)	(5.8)	にじい色	にじい色	平刷	平刷	平刷	赤砂、赤石、赤褐色	内面に黒線あり	R41
42	第15区	S029	粘土土器	壺		(11.0)	(5.0)	褐色	にじい色	ナデ	平刷	ナデ	赤砂、赤褐色		R42
43	第15区	S029	粘土土器	壺	(14.0)		(4.5)	褐色	褐色	平刷	平刷	平刷	赤砂		R39
44	第15区	S029	粘土土器	壺	(14.0)		(15.2)	赤褐色	にじい色	ナデ、ハケメ	平刷	平刷	赤、石灰、赤褐色、赤石		R37
45	第15区	S029	粘土土器	壺	(27.5)		(13.0)	にじい色	にじい色	ナデ	ナデ	ナデ	赤砂、赤色粘土、赤褐色、赤石		R40
46	第15区	S029	粘土土器	壺	(30.0)		(5.4)	褐色	にじい色	ハケメ	ナデ	ナデ	赤砂、赤石、石灰、赤褐色、赤石		R38
47	第15区	S029	粘土土器	蓋形	(28.0)		(7.0)	にじい色	にじい色	内塗り、タタキ	内塗り、タタキ	内塗り、タタキ	赤砂、赤褐色、赤褐色、赤石		R44
48	第15区	S029	粘土土器	蓋形	(36.0)		(5.8)	にじい色	にじい色	内塗り、ナデ	内塗り、ナデ	内塗り、ナデ	赤砂、石灰、赤褐色		R43
49	第15区	S029	石製品	磨製石	(1.25)	2.1	0.2	赤褐色					赤石	重量2.0g	R45
50	第16区	S116	粘土土器	壺	(18.0)		(4.3)	にじい色	褐色	平刷	平刷	平刷	赤、石灰、赤石		R17
51	第16区	S116	粘土土器	壺	(25.0)		(13.6)	赤褐色	にじい色				赤砂、赤石、石灰、赤褐色		R18
52	第16区	S116	粘土土器	壺		7.0	(13.8)	にじい色	褐色	ハケメ	ナデ	ナデ	赤砂、石灰、赤褐色、赤石	内面に黒線あり	R19
53	第16区	S116	粘土土器	壺		(6.0)	(4.6)	にじい色	褐色	ハケメ	タタキ	タタキ	赤砂、赤石、石灰、赤褐色、赤石	内面に黒線あり	R20
54	第16区	S130	粘土土器	壺	(12.0)		(12.5)	にじい色	にじい色	ナデ	ナデ	ナデ	赤砂、赤褐色、赤褐色、赤石		R46
55	第16区	S130	粘土土器	壺	(11.0)	13.2	16.0	にじい色	にじい色	ナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	ナデ	赤砂、赤褐色、赤褐色、赤石		R49
56	第16区	S130	土製品	磨製石	5.0	直径6.7	1.4	にじい色	褐色	ナデ			赤、石灰	一部黒線あり	R50
57	第16区	S130	粘土土器	壺	(15.3)	6.6	12.5	にじい色	にじい色	ナデ、ハケメ	ナデ、タタキ	ナデ	赤、石灰、赤褐色、赤石	内面に黒線あり	R47
58	第16区	S130	土製品	磨製石		(4.85)	2.2	赤褐色					赤褐色	重量6.2g	R51



第 17 図 納楚柳遺跡周辺遺構配置図 (1/400)

図版

納楚楠町遺跡第 4 次調査

図版 1 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) 調査区全景（北から）



(2) 調査区全景（北西から）

図版 2 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) 調査区西側近景 (南から)



(2) 調査区東側近景 (南から)

図版 3 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) SD21 完掘状況 (南から)



(2) SK22 土層断面 (北から)



(3) SK22 完掘状況 (北西から)



(4) SK27 完掘状況 (南西から)



(5) ST1 土層断面 (北から)



(6) ST1 完掘状況 (北から)



(7) ST2 完掘状況 (東から)



(8) ST3 検出状況 (北から)



(1) ST3 完掘状況（南東から）



(2) ST4・5 検出状況（南東から）



(3) ST6 検出状況（南東から）



(4) ST7 検出状況（南東から）



(5) ST4 完掘状況（南西から）



(6) ST5 完掘状況（南西から）



(7) ST6・7 完掘状況（南西から）



(8) ST8 完掘状況（南西から）

図版5 納楚楠町遺跡第4次調査



(1) ST9 土層断面 (北から)



(2) ST9 完掘状況 (北西から)



(3) ST10 完掘状況 (東から)



(4) ST11 土層断面 (北から)



(5) ST11 完掘状況 (東から)



(6) ST12 土層断面 (北から)



(7) ST12 完掘状況 (南東から)



(8) ST13 完掘状況 (北から)

図版 6 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) ST14 検出状況 (南から)



(2) ST14 検出状況 (北西から)



(3) ST14 掘削状況 (北東から)



(4) ST14 完掘状況 (北東から)



(5) ST15 検出状況 (東から)



(6) ST15 完掘状況 (西から)



(7) ST16 完掘状況 (南から)



(8) ST17 土層断面 (北東から)

図版 7 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) ST17 完掘状況 (北東から)



(2) ST18 土層断面 (西から)



(3) ST18 完掘状況 (西から)



(4) ST19 検出状況 (西から)



(5) ST19 検出状況 (北から)



(6) ST19 掘削状況 (北から)



(7) ST19 完掘状況 (西から)



(8) ST19 完掘状況 (北から)

図版 8 納楚楠町遺跡第 4 次調査



(1) ST23 検出状況（南から）



(2) ST23 土層断面（南から）



(3) ST23 木棺痕跡検出状況（南西から）



(4) ST23 完掘状況（南西から）



(5) ST24 土層断面（南から）



(6) ST24 完掘状況（西から）



(7) 調査風景（北東から）



(8) 調査風景（南から）

図版9 納楚楠町遺跡第4次調査



納楚楠町遺跡第4次調査遺物写真①

図版 10 納楚楠町遺跡第 4 次調査





図版

納楚柳遺跡第 5 次調査

図版 12 納楚柳遺跡第 5 次調査



(1) 調査区東側近景 (東から)



(2) 調査区西側近景 (西から)

図版 13 納楚柳遺跡第5次調査



(1) SB31 土層断面 (南から)



(2) SB31 床面検出状況 (南から)



(3) SB31 完掘状況 (東から)



(4) SB31 完掘状況 (北西から)



(5) SB32 完掘状況 (北東から)



(6) SD1 土層断面 (南から)



(7) SD1 完掘状況 (南から)



(8) SD25 土層断面 (南から)

図版 14 納楚柳遺跡第 5 次調査



(1) SD25 完掘状況（東から）



(2) SD25 鉄器出土状況（東から）



(3) SD29 土層断面（南から）



(4) SD29 完掘状況（北西から）



(5) SK30 完掘状況（南東から）



(6) SB43 完掘状況（北西から）



(7) ST16 土層断面（北西から）



(8) ST16 完掘状況（西から）

図版 15 納楚柳遺跡第 5 次調査



(1) ST16 赤色顔料検出状況（南西から）



(2) ST16 完掘状況（北東から）



(3) ST17 検出状況（北から）



(4) ST17 完掘状況（北西から）



1



2



3



4



5



6



7



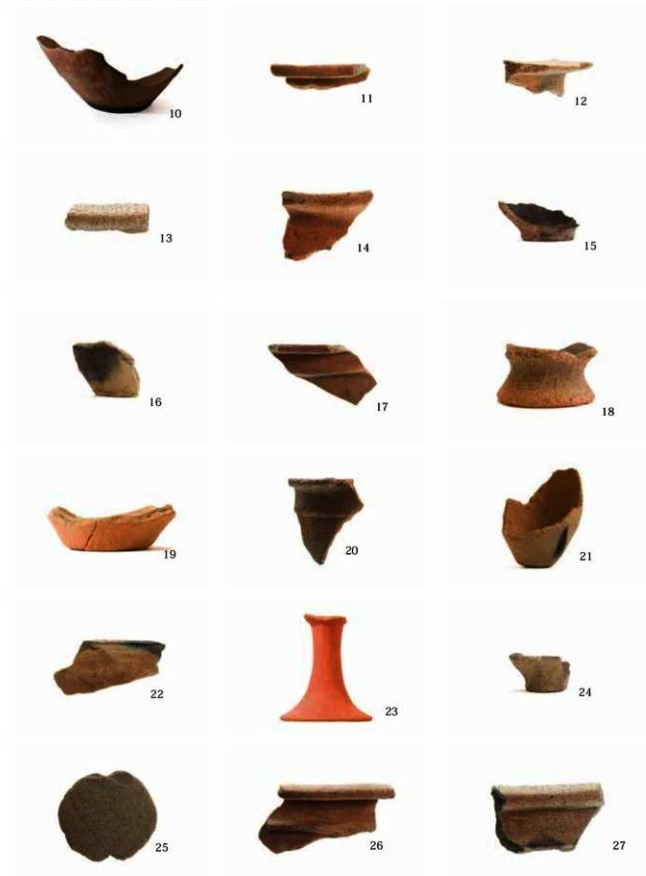
8



9

(5) 納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真①

図版 16 納楚柳遺跡第 5 次調査



納楚柳遺跡第 5 次調査遺物写真②

図版 17 納楚柳遺跡第 5 次調査



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43

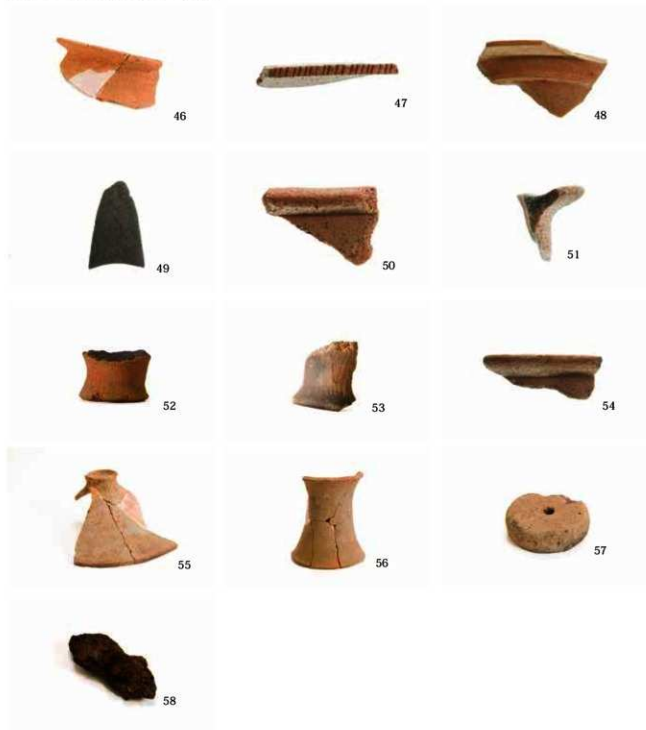


44



45

図版 18 納楚柳遺跡第 5 次調査



報告書抄録								
ふりがな	のうそいせきぐん							
書名	納楚遺跡群							
副書名	納楚楠町遺跡第4次調査 納楚柳遺跡第5次調査							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第143集							
編著者名	江頭 俊介							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	八女市本町6 4 7番地							
発行年月日	2024年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査の原因
		市町村	遺跡番号					
のうそくすまちいせき 納楚楠町遺跡 第4 だい4じちょうき 次調査	やめし のうそ 八女市納楚547-1、 549-1、551-1、553	402109		33° 12' 50"	130° 34' 26"	20220219～ 20220622	411㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
納楚楠町遺跡 第4 次調査	集落跡	弥生時代	溝2、土坑1、土壇墓 12、甕棺墓8、木棺 墓1	弥生土器、石器		筑後地方特有のヘラミガキを施 す弥生中期前半の甕棺墓群		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査の原因
		市町村	遺跡番号					
のうそやなぎいせきだい5 納楚柳 遺跡第5次調 査	やめし のうそ 八女市納楚434、 435-1	402109		33° 12' 43"	130° 34' 32"	20220701～ 20220916	260㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
納楚柳遺跡第5次調 査	集落跡	弥生時代	竪穴状遺構3、溝3、 土坑1、土壇墓2	弥生土器、石器				

納楚遺跡群

納楚柿町遺跡第4次調査

納楚柳遺跡第5次調査

八女市文化財調査報告書

第143集

令和6年3月31日

発行 八女市教育委員会

印刷 (株) 東 兄 弟

八女市祈禱院563